

今後の取り組み

平成28年度函館市地域ケア全体会議では、グループワーク等を通して、参加者の皆様と一緒に今後の取り組みの方向性を検討し、共有しました。

函館市地域ケア全体会議

+

函館市地域ケア全体会議

認知症になっても住み慣れた地域でその人らしい生活を営むために必要なサポートがたくさんでてきました。

全部大事なことです、優先的に取り組むのは・・・

認知症の人の理解者・協力者を増やす

- ・理解者・協力者が増え、色々な場面で見守りやサポートを受けられると、認知症で独居でも地域で生活できる期間が伸びる。
- ・理解者・協力者が増えると、ひとりひとりの負担も軽減できる。

認知症の人の火災リスクを減らす

- ・防災についての正しい知識を持ち、早期に異変に気づき、環境を整えることで、地域で生活できる期間が伸びる。

具体的には・・・

○必要な知識の普及

地域での見守り、異変に気付く視点、および相談先、火災予防の取り組み等について、認知症サポーター養成講座や出前講座で広く普及します

○相談しやすい仕組みづくり

居宅介護支援事業所、地域包括支援センターと一緒に、地域ケア会議等の実施により、専門職が地域とつながる仕組みづくりについて検討します

○火災リスクに気づく

人を増やす

灯油を配達する業者等、火災リスクに気づく可能性が高い業者へ、認知症サポーター養成講座の周知を行います。

認知症サポーター養成講座・出前講座のご案内

認知症について、地域での見守りの大切さ、異変に気付く視点や相談先について勉強してみませんか。講師を無料で派遣します。

<申し込み先>

- ・出前講座：高齢福祉課高齢者・介護総合相談窓口(☎ 21-3025)
- ・認知症サポーター養成講座：高齢福祉課介護予防・認知症担当(☎ 21-3081)

共に支え合うまち函館を目指して一緒に取り組みましょう！！

※地域ケア全体会議の内容や資料については、函館市ホームページにも掲載しています。
市ホームページアドレス <http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014081900119/>

— 発行 —

函館市地域ケア全体会議事務局（函館市保健福祉部高齢福祉課 高齢者介護総合相談窓口）

平成28年度函館市地域ケア全体会議報告書

～共に支え合うまち函館を目指して～

平成28年度函館市地域ケア全体会議を開催しました

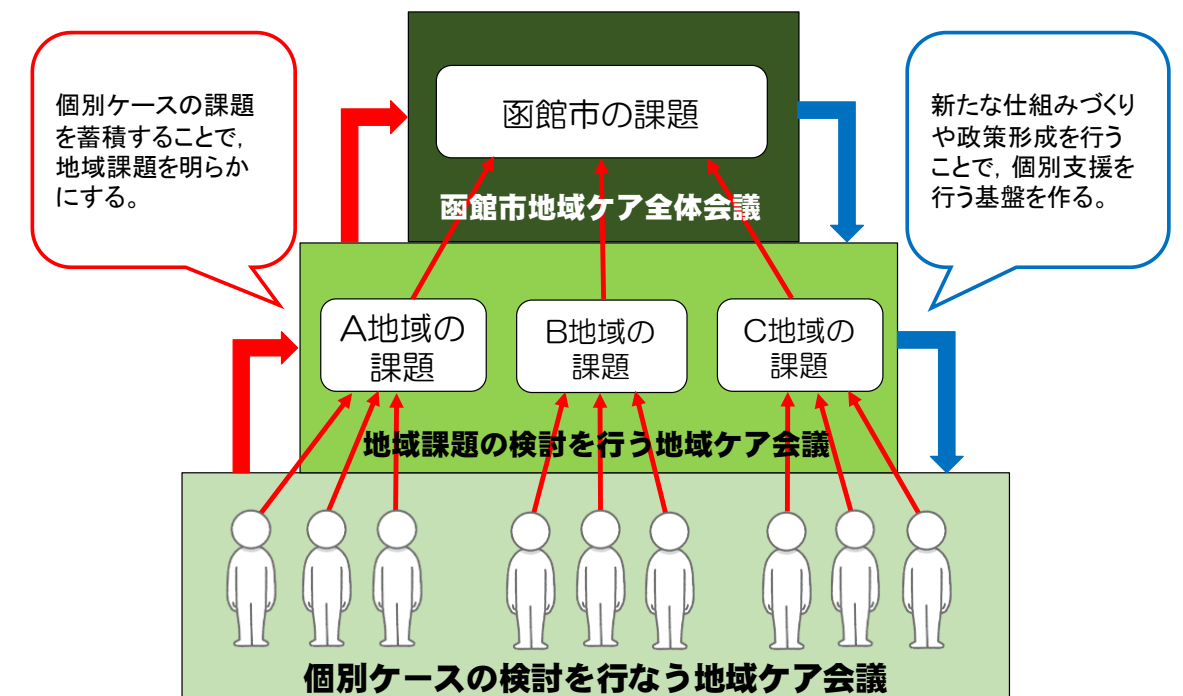
函館市では、平成22年度から高齢者あんしん相談窓口 函館市地域包括支援センターが地域ケア会議を開催し、地域住民や関係機関等と個別ケースの課題の解決に向けた検討や地域の課題を把握する検討を行ってきました。

これまで実施した会議では、**認知症で独居の方の健康管理や日常生活に関する課題**、**地域住民の認知症に関する理解不足**、**地域の支え合う力の低下**などについて、多くの地域で話し合われてきました。函館市では、全道、全国に比べても少子高齢化の進行は深刻で、今後も認知症高齢者や高齢者のみ世帯の増加が見込まれています。そのようななかで、**認知症になっても住み慣れた地域でその人らしい生活を営むため**には、民生児童委員や町会役員、在宅福祉委員など地域福祉の担い手や関係機関の職員だけではなく、**地域住民同士がお互い支え合える地域づくりが必要**となります。

そこで、函館市地域ケア全体会議を開催し、民生児童委員や町会役員、在宅福祉委員、函館認知症の人を支える会、見守り協定を締結している事業者、介護保険事業所等の皆様と一緒に、共に支え合うまち函館を目指して何を行っていくのかということについて、検討を行いましたので、その内容を報告いたします。

函館市における地域ケア会議の取り組み

函館市では、市が主催する「函館市地域ケア全体会議」と地域包括支援センターが主催する「個別ケースの検討を行う地域ケア会議」「地域課題の検討を行う地域ケア会議」の3つの会議に取り組んでいます。それぞれの会議は、下記の図のように連動します。



第1回目の開催内容

○参加者数 137名

○内 容

- ・報 告『函館市における地域ケア会議の開催について』
保健福祉部高齢福祉課 高齢者・介護総合相談窓口 古口 奈津子
- ・講 演『地域包括ケア推進のための「地域ケア会議」』
社会福祉法人川崎聖風福祉会 事業推進部長 中澤 伸 氏
- ・意見交換『地域包括ケアのために自分でできること』

人口減少と少子高齢化が私達の生活にどう影響するのか、なぜ今地域包括ケアの実現が必要なのか、地域ケア会議を行う意義等についてご講演いただきました。



第2回目の開催内容

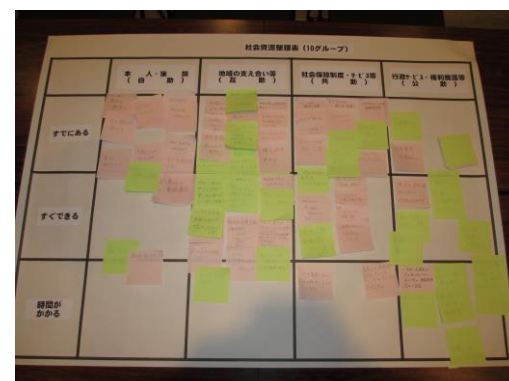
○参加者数 120名

○内 容

- ・グループワーク『認知症でひとり暮らしの高齢者が、地域で生活を続けるために必要なサポートを様々な立場から考える！！』



函館市で生活している、認知症になってもひとり暮らしができてい
る事例を用い、どんなサポートがあるからひとり暮らしができるのか、あ
ったらいいと思うサポートを話し合いました。



第3回目の開催内容

○参加者数 111名

○内 容

- ・報 告『認知症になっても地域で暮らし続けるために～家族の立場から』
函館認知症の人を支える会 事務局長 松倉 養子 氏
- ・報 告『これまでの会議のまとめと今後の取り組みについて』
保健福祉部高齢福祉課 高齢者・介護総合相談窓口 岩島 貴寿
- ・シンポジウム『共に支え合うまち函館を目指して～いま私たちにできること～』
(シンポジスト)
本通中央町会 保健福祉部長 久蔵 睦子 氏
第14方面民生児童委員協議会 元会長 橋田 悌二 氏
居宅介護支援事業所いろは 管理者 吉田 夏美 氏
函館市地域包括支援センターゆのかわ 社会福祉士 森 健二 氏
(コーディネーター)
社会福祉法人川崎聖風福祉会 事業推進部長 中澤 伸 氏

○報告者・シンポジストからの報告内容

【家族の立場から】

- ・地域の高齢者と関わろう、手助けしようと考えている人達が多くいることが分かり頼もしい。
- ・地域の人が認知症高齢者を支援するためには、元気な時から「顔見知り」になることが重要。
- ・家族や地域だけでは支援が難しいケースもあるので、チームで関わると良いのではないかな。

【町会の立場から】

- ・空事務所を活用し、地域の人と集まり、情報交換を行っている。閉じこもりがちなのことはみんなで気をつけ、声をかけるようにしている。

【民生児童委員の立場から】

- ・担当している地域ではサークル活動が活発。地域住民が得意なことを生かして、講師をしている。地域の活動は、発案する人も大事だが、協力者を作っていくことが重要。

【ケアマネジャーの立場から】

- ・サービスの利用だけでは高齢者の生活を十分支えられない。これまで続けてきたこと、好んでいることを続けることが生活の質を向上させるが、そのためには、ケアマネジャーだけでは力不足。近隣住人や友人、元同僚などの協力が必要になる。

【地域包括支援センターの立場から】

- ・地域住民と取り組んだ徘徊模擬訓練について報告。

